

## 第2章 子どもを取り巻く地域の状況



## 第2章 子どもを取り巻く地域の状況

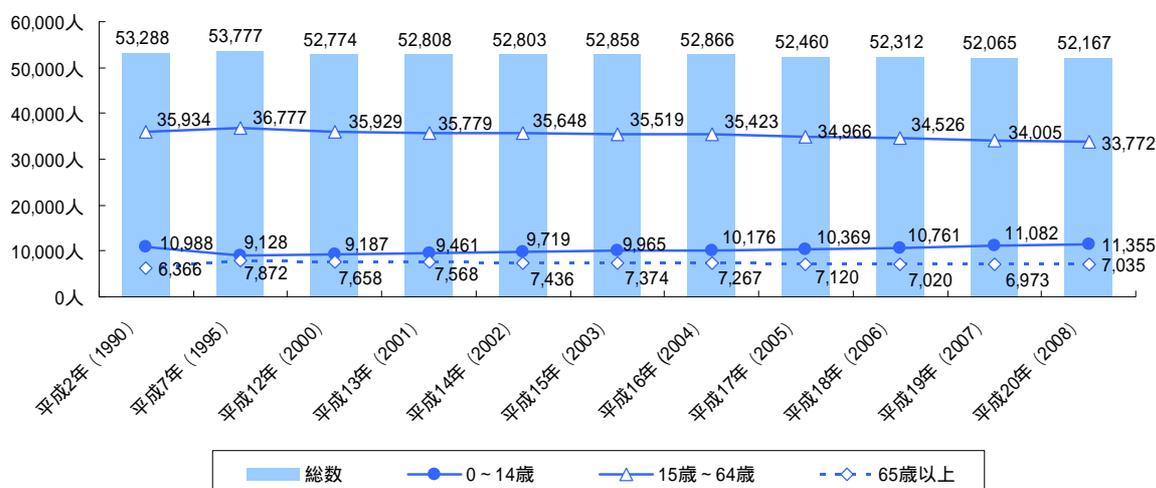
### 1. 子育てに関する現状

#### (1) 少子化の動向

##### 総人口年齢3区分の推移

人口は、平成12年の国勢調査によると、初めて5万2千人台となりましたが、その後一貫して5万2千人台を確保しています。

しかし、年齢3区分の構成比の推移を平成7年と平成20年で比較すると、0～14歳は17.0%から13.5%に、15～64歳は68.4%から64.8%に、65歳以上は14.6%から21.7%に変化しており、少子化、高齢化の推移が顕著となっています。



茨城県常住人口調査(平成2,7,12,17年は国勢調査)

##### 人口構成比の推移

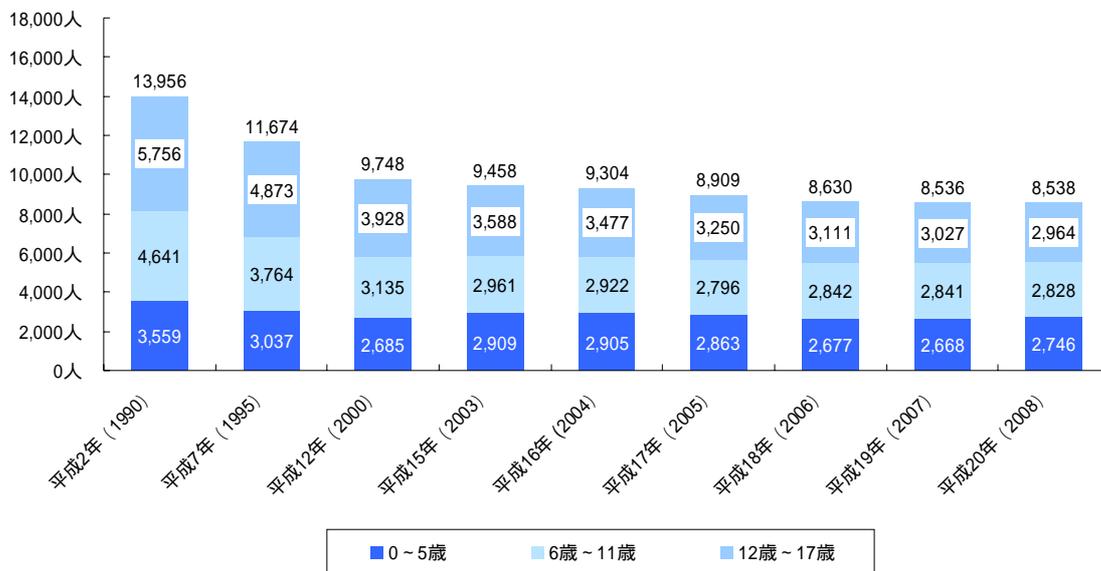
		0～14歳	15～64歳	65歳以上
平成2年	結城市	20.6%	67.5%	11.9%
	茨城県	19.6%	68.3%	11.9%
平成7年	結城市	17.0%	68.4%	14.6%
	茨城県	17.1%	68.7%	14.2%
平成12年	結城市	14.5%	68.1%	17.4%
	茨城県	15.4%	68.0%	16.6%
平成13年	結城市	14.3%	67.8%	17.9%
	茨城県	15.1%	67.8%	17.1%
平成14年	結城市	14.1%	67.5%	18.4%
	茨城県	14.9%	67.5%	17.7%
平成15年	結城市	14.0%	67.2%	18.9%
	茨城県	14.6%	67.2%	18.2%
平成16年	結城市	13.8%	67.1%	19.1%
	茨城県	14.4%	66.9%	18.7%
平成17年	結城市	13.6%	66.7%	19.8%
	茨城県	14.2%	66.4%	19.4%
平成18年	結城市	13.5%	66.1%	20.4%
	茨城県	14.0%	65.7%	20.2%
平成19年	結城市	13.4%	65.5%	21.1%
	茨城県	13.9%	65.3%	20.7%
平成20年	結城市	13.5%	64.8%	21.7%
	茨城県	13.8%	64.6%	21.6%

茨城県常住人口調査(平成2,7,12,17年は国勢調査)

児童人口（子ども数）の推移

0歳から17歳までの子ども数の推移では、平成2年の13,956人から平成20年の8,564人へと約5,400人（約39%）が減少しており、18年間での少子化の傾向が顕著にみられます。

年齢別の構成比では、平成2年では0～5歳25.5%、6～11歳33.3%、12～17歳41.2%だったものが、現在ではそれぞれ32.1、33.0、34.9%とほぼ同数となっています。



茨城県常住人口調査(平成2,7,12,17年は国勢調査)

	0～5歳	6～11歳	12～17歳
平成2年(1990)	25.5%	33.3%	41.2%
平成7年(1995)	26.0%	32.2%	41.7%
平成12年(2000)	27.5%	32.2%	40.3%
平成15年(2003)	31.2%	31.0%	37.8%
平成16年(2004)	31.6%	31.2%	37.2%
平成17年(2005)	31.2%	32.5%	36.3%
平成18年(2006)	30.9%	32.8%	36.2%
平成19年(2007)	31.1%	33.0%	35.9%
平成20年(2008)	32.1%	33.0%	34.9%

茨城県常住人口調査(平成2,7,12,17年は国勢調査)

出生数、出生率の推移

本市における出生数・出生率は平成12年からの数値を見ると、ほとんど変化していません。このことが総人口年齢3区分の推移でもみたように、人口がほとんど減少していないことへとつながっていることがうかがえます。

出生数・出生率(人口千人あたり)

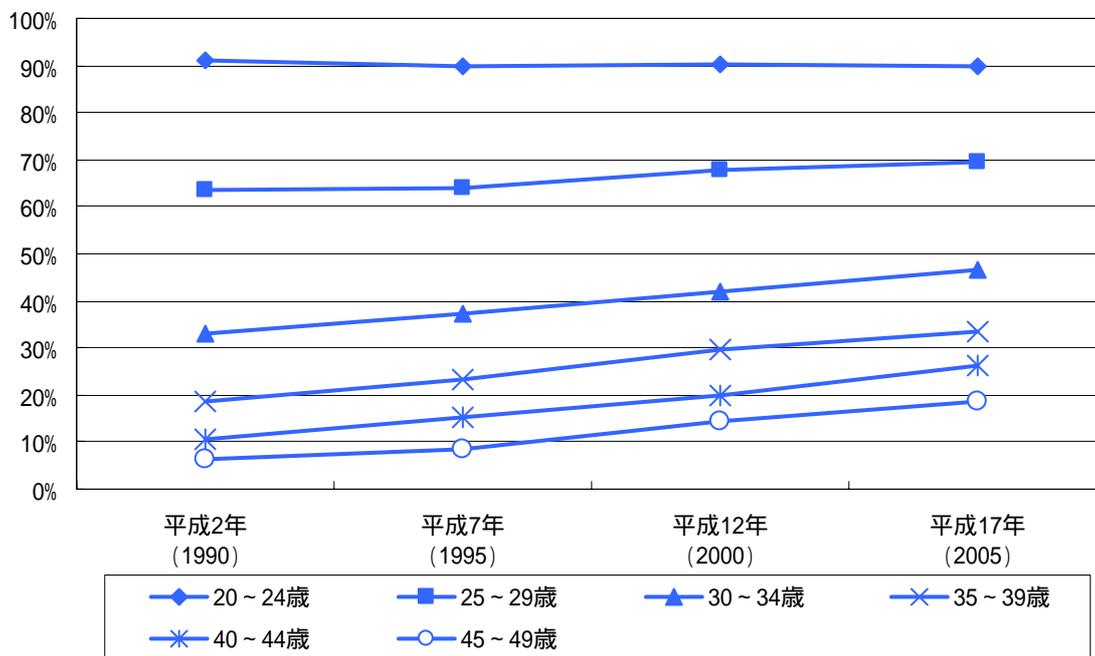
	結城市	
	出生数	出生率
平成12年	476人	9.2人/千人
平成13年	477人	9.2人/千人
平成14年	439人	8.5人/千人
平成15年	445人	8.6人/千人
平成16年	467人	9.0人/千人
平成17年	392人	7.6人/千人
平成18年	414人	8.1人/千人
平成19年	471人	9.2人/千人
平成20年	452人	8.8人/千人

茨城県保健統計年報(平成20年度は概数)

年齢別未婚者の割合

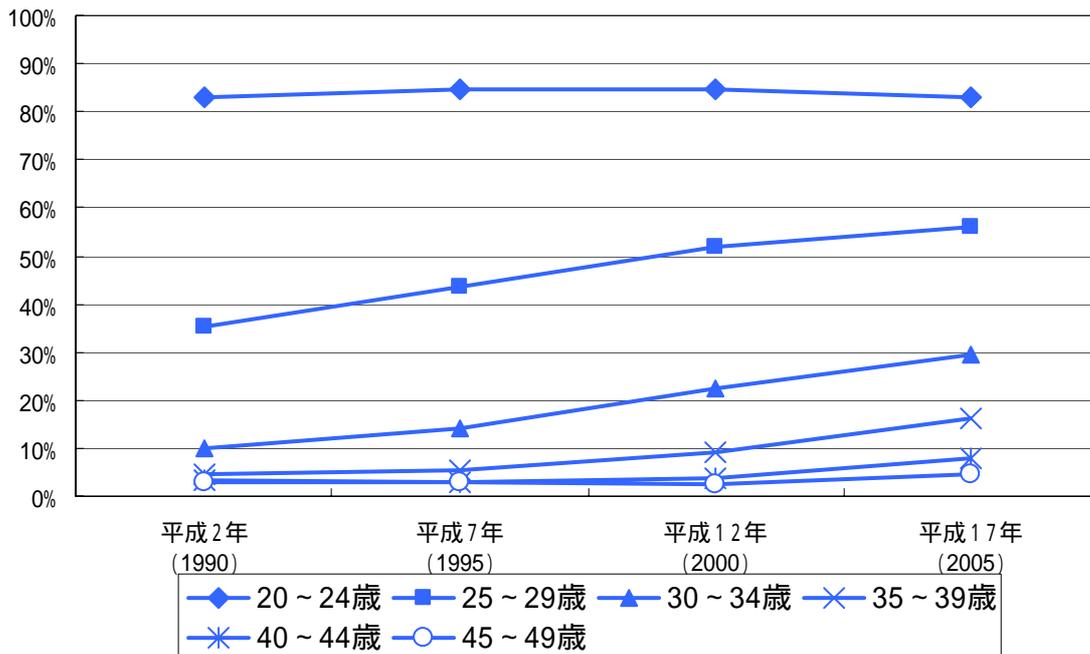
未婚者の推移を年齢別に見ると、男性では25～29歳、30～34歳の未婚者の比率が高まっており、晩婚の傾向がうかがえます。女性においても同様の傾向が見られますが、25～29歳の未婚者は平成2年では30%強だったものが、平成17年では50%を超えるなど、20代後半の未婚者の割合が高まっています。

1) 男性



国勢調査

2) 女性



国勢調査

初婚年齢の推移

本市における初婚年齢の推移を見ると、夫、妻ともに、平成12年と平成19年を比べると、夫が1.4歳、妻が1.3歳ほど、初婚年齢が高くなっています。

	結城市	
	夫	妻
平成12年	28.6歳	26.0歳
平成13年	28.4歳	26.3歳
平成14年	28.6歳	26.6歳
平成15年	29.7歳	27.1歳
平成16年	29.9歳	27.4歳
平成17年	29.2歳	27.3歳
平成18年	29.5歳	27.6歳
平成19年	30.0歳	27.3歳

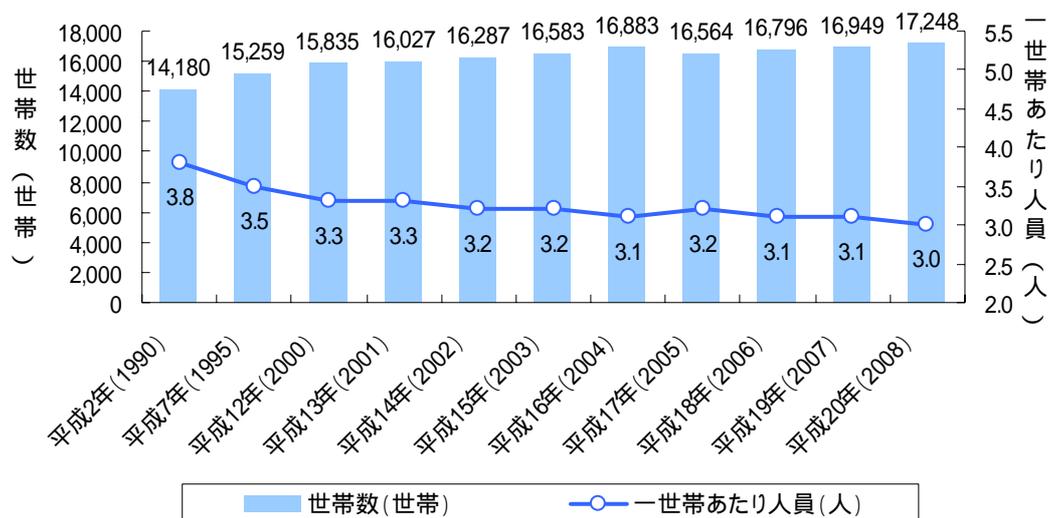
人口動態統計

このように少子化傾向は、結婚年齢が高くなり、また未婚者の割合が高くなること等も要因の1つとなっていることがうかがえます。

## (2) 家族・地域の状況

### 世帯数、世帯人員

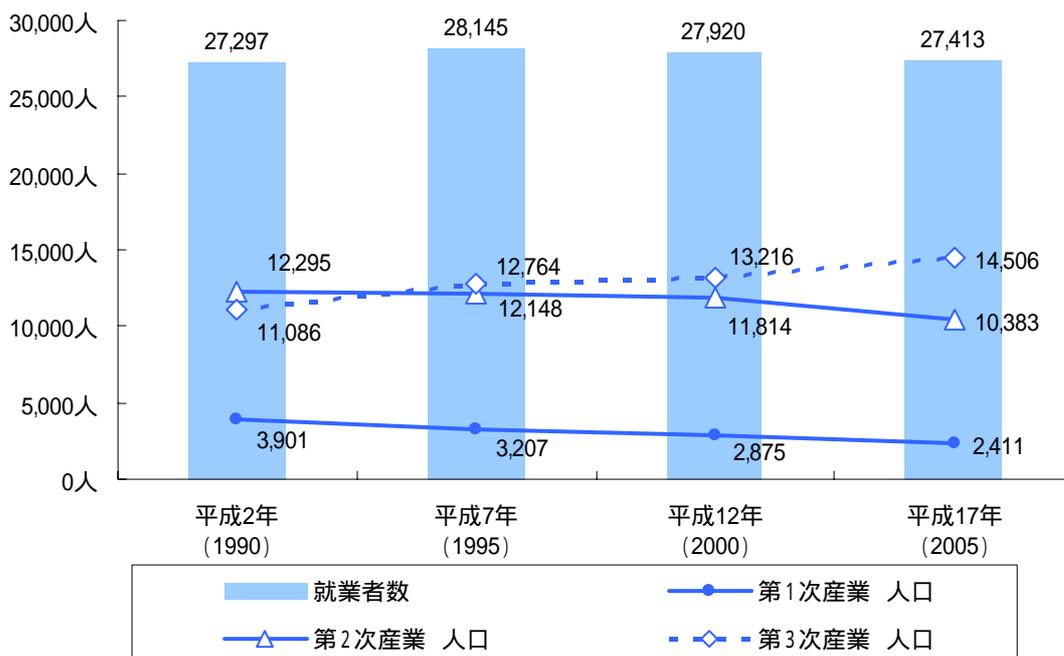
人口は、わずかに減少していますが、世帯数は着実に増加傾向にあり、平成2年から平成20年の間に、約22%（3,068世帯）増加しています。  
それに対し、一世帯あたりの人員は、同年の間に3.8人から3.0人に減少しています。



茨城県常住人口調査（平成2、7、12、17年は国勢調査）

### 就業人口の変化

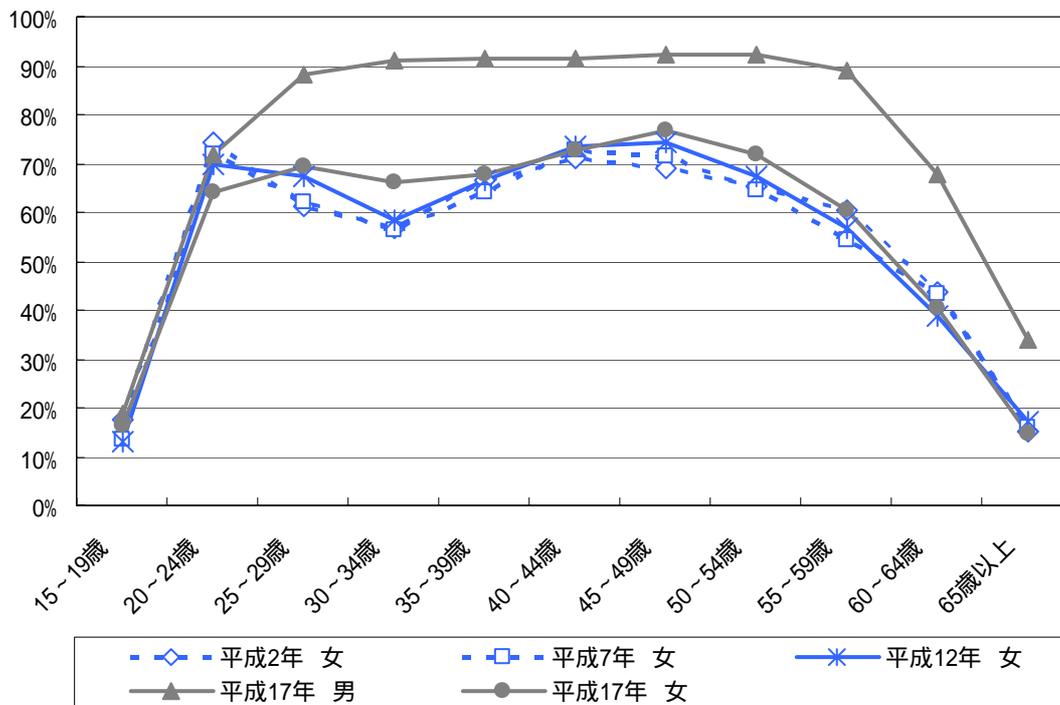
就業人口は平成7年をピークに若干減少傾向にあります。  
就業構造は、平成7年に第2次産業と第3次産業の比率が逆転しましたが、その後第3次産業が一貫して増加し、第1次、第2次産業は減少が続いています。



国勢調査

女性の就業率

女性の就業率は、M字の形に大きな変化はありませんが、30～34歳の就業率は、平成2年～平成12年にかけて、ほぼ60%弱であったものが、平成17年では約67%程度に上昇していることが新たな傾向として読み取れます。20～24歳以外は、総じて、女性の就業率は、過去に比べて最も高い値を示しています。



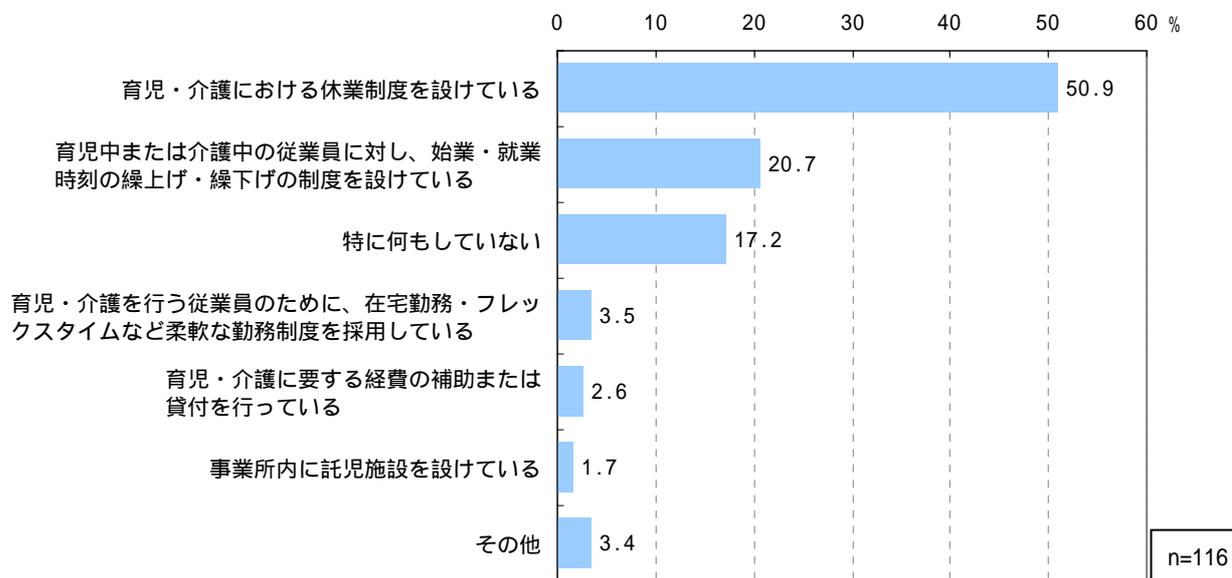
国勢調査

### (3) 市の就業環境

結城市男女共同参画に関する事業所アンケート調査報告書(女性政策室より)

男女が共に育児・介護をしながら働くことについて(複数回答)

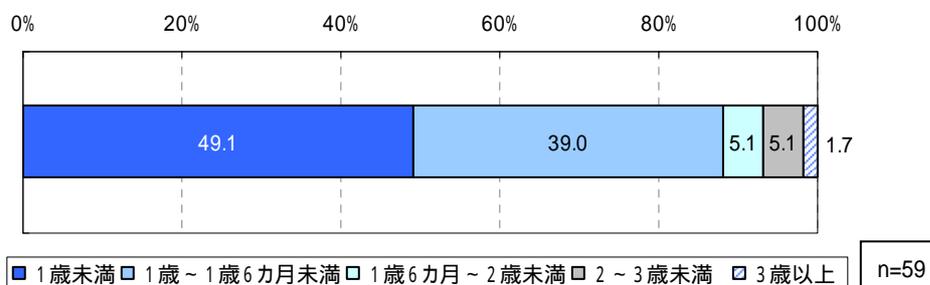
育児・介護における休業制度を設けている事業所が50.9%であるのに対し、特に何もしていない事業所が17.2%となっています。



\*その他  
 ・申し出による残業制度。  
 ・事業所内に託児施設を設けることを検討中。  
 ・制度としては設けていないが必要に応じ臨機応変に対処している。

(上記設問のうち、「育児・介護における休業制度を設けている」と回答した事業所) 子どもが何歳になるまで育児休業を取得することができるか。

育児休業制度については、「1歳未満」が49.1%と最も多く、次いで「1歳～1歳6カ月未満」が39%となっています。



平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日までの間に出産又は配偶者が出産した従業員の人数。

育児休業の取得率は、女性が 57.6%に対し、男性は 2.6%と低くなっています。

	本人又は配偶者が出産した 従業員人数	育児休業を取得した 従業員人数	取得率
女性	99 人	57 人	57.6%
男性	115 人	3 人	2.6%

## 2. 保育及び教育環境

### (1) 保育所(園)

保育所(園)は公立3所、私立8園で合計11所(園)となっています。  
定員は公立200名、私立805名、合計で1,005名となっています。  
休日保育は、私立保育園3園で実施しています。

保育所(園)の状況(平成21年3月1日現在)

保育所(園)名	定員	保育時間(平日)	保育時間(土曜・休日)	通園バス	特別保育事業等実施状況				
					延長保育	育児相談	地域活動事業	休日保育	一時保育
公立	城西保育所	80名	7時30分～19時00分	7時30分～12時30分					
	山川保育所	60名	7時50分～18時00分	7時50分～12時00分					
	上山川保育所	60名	7時50分～18時00分	7時50分～12時00分					
私立	明照保育園	90名	7時00分～19時00分	7時00分～12時00分					
	みにく保育園	150名	7時00分～19時30分	7時00分～17時30分	あり				
	ふたば保育園	150名	7時00分～19時00分	8時00分～13時00分	あり				
	つくば保育園	130名	7時30分～19時30分	8時00分～17時00分(休日8時30分～17時00分)	あり				
	たま保育園	90名	7時30分～19時00分	7時30分～17時30分	あり				
	あすなる保育園	60名	7時00分～19時00分	8時00分～16時00分					
	かなくぼ保育園	90名	7時00分～19時30分	8時00分～13時00分	あり				
	もろ保育園	45名	7時30分～19時00分	8時00分～13時00分	あり				

「地域活動事業」は、補助事業として実施しているものであり、私立保育園が対象となります。公立保育所では異年齢児交流事業等、独自の地域活動事業を実施しています。

社会福祉課

**(2) 学童クラブ及び利用状況(放課後児童健全育成事業)**

学童クラブを行っているのは、市の小学校9校のうち6校となっています。  
 保育時間として、平日はどの学童クラブも13時～18時です。また、土曜日に実施しているのは2校です。  
 学童クラブ利用者は、各学年とも70人前後で、総数に対する割合は、平均で14.2%です。

学童クラブの状況(平成21年3月1日現在)

名称	保育時間(平日)	長期休暇 学校の振り替え	土曜日
結城西小学童クラブ	13時00分～18時00分	7時40分～18時00分	7時40分～18時00分
結城小学童クラブ	13時00分～18時00分	7時30分～18時00分	8時00分～18時00分
城西小学童クラブ	13時00分～18時00分	7時30分～18時00分	-
城南小学童クラブ	13時00分～18時00分	8時00分～18時00分	-
江川北小学童クラブ	13時00分～18時00分	7時30分～18時00分	-
絹川小学童クラブ	13時00分～18時00分	7時00分～18時00分	-

学年	人数	学童クラブ利用者	割合
1年生	484人	74人	15.3%
2年生	499人	73人	14.6%
3年生	494人	63人	12.8%
計	1477人	210人	14.2%

社会福祉課

**(3) 幼稚園**

幼稚園は、私立のみで4園となっています。  
 土曜日の開園は1園で実施しています。

幼稚園の状況(平成21年3月1日現在)

	園名	保育時間(平日)	保育時間(土)	預かり保育
私立	富士見幼稚園	9時00分～14時00分	休園	有
私立	つくば幼稚園	9時00分～15時30分	休園	有
私立	結城ひかり幼稚園	8時00分～15時00分	8時00分～12時00分(第1、2、3)	有
私立	玉岡堯舜幼稚園	9時00分～14時00分	休園	有

学校教育課

**(4) 学校教育**

小学校数は市内9校です。  
児童総数は、2,870人です。

小学校の状況(平成21年3月1日現在)

	児童数	学級数
結城小学校	699人	23学級
城南小学校	527人	18学級
結城西小学校	399人	14学級
城西小学校	308人	13学級
絹川小学校	254人	12学級
上山川小学校	183人	8学級
山川小学校	187人	7学級
江川北小学校	219人	9学級
江川南小学校	94人	7学級
計	2,870人	111学級

学校教育課

中学校数は市内3校です。  
生徒総数は、1,429人です。

中学校の状況(平成21年3月1日現在)

	生徒数	学級数
結城中学校	523人	16学級
結城東中学校	363人	13学級
結城南中学校	543人	16学級
計	1,429人	45学級

学校教育課

### 3. 平成 20 年度ニーズ調査結果の概要

#### (1) 平成 20 年度ニーズ調査結果の概要

##### アンケート調査実施概要

##### 1) アンケート調査の方法

本調査は、結城市に住む未就学児童及び小学生児童の保護者、13 歳～18 歳の中高生、10 歳代～60 歳代の一般市民を対象に行いました。

設問内容は、国が作成した全国統一のモデル調査票による質問内容・形式を基本としたものに、結城市の実情を加味し、前回調査（平成 15 年度）と同じ設問を盛り込んだものを作成しました。

対象者は住民基本台帳から無作為抽出とし、配布・回収方法は、それぞれ以下のような方法で行いました。

##### 就学前児童保護者へのアンケート

A. 住民基本台帳より就学前児童のいる世帯を抽出し郵送にて配布、保育所来所時に回収

B. 保育所（園）を利用していない保護者には、郵送にて配布・回収

##### 小学生児童（保護者・児童本人）へのアンケート

A. 市内の学校を通して、教室で配布・回収

##### 中高生へのアンケート

A. 中学生：市内の中学校を通して、教室で配布・回収

B. 高校生：郵送にて配布・回収

##### 一般市民へのアンケート

A. 郵送にて配布・回収

##### 2) アンケート調査の期間

平成 21 年 2 月 23 日 ~ 平成 21 年 3 月 6 日

##### アンケート配布・回収状況

今回の調査は、質問数も多く、また回答形式もやや複雑だったこともあり、回収率は 51.7%で、前回調査の回収率（53.9%、配布総数 4,557）を下回りました。その中で、中高生のみ、前回調査を上回っています。

調査対象者	配布数(票)	回収数(票)	回収率(%)	前回調査回収率(%)
未就学	905	416	46.0	56.7
就学(小学生)	920	726	78.9	85.2
中高生	692	418	60.4	56.2
一般市民	1,529	533	34.8	43.1
計	4,046	2,093	51.7	53.9

## (2) アンケート調査結果(抜粋)

調査結果については、以下の13項目について、抜粋して取りまとめたものです。

(( )内はアンケート対象者)

1. 子どもの主な世話者の就業状況(未就学児童、就学児童)
2. 子どもが病気の時の対応について(未就学児童)
3. 緊急の場合の対応について(未就学児童)
4. 保育サービスの利用状況(未就学児童)
5. 学童保育サービスの利用状況(就学児童)
6. 子育て意識(未就学児童、一部就学児童)
7. 地域の環境について(未就学児童)
8. 地域に望むこと(未就学児童、就学児童、一般市民)
9. 「子どもの生命と健康を守る」ことについて(未就学児童、一部就学児童)
10. 「子どもの遊びと学びを豊かにすること」について(未就学児童、就学児童)
11. 思春期保健対策に関する中高生の意識と実態について(中高生)
12. 市への要望(未就学児童、就学児童、一般市民)
13. 自由意見(未就学児童、就学児童、中高生、一般市民)

### 調査結果の見方

- (1) 結果は百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%に満たない、または上回ることがあります。なお、回答者を絞った枝問では、質問該当者を100%とするのを原則としています。
- (2) 複数回答の設問では、回答の合計を回答者の合計で割った比率を用いているため、100%を上回ることがあります。
- (3) 本文や図中の選択肢表記では、語句を短縮・省略化しているものもあります。

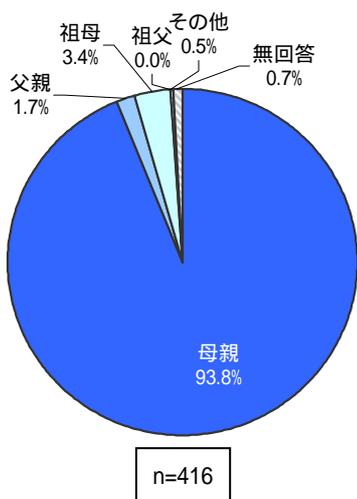
子どもの主な世話者の就労状況（未就学児童、就学児童）

子どもの主な世話者は、未就学児童、就学児童とも 90%以上が母親となっています。その母親の就労状況は、未就学児童は半数以上、就学児童は約 70%が何らかの形で就労している状況にあります。

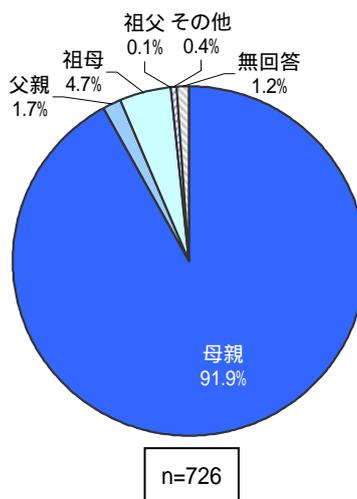
子どもの主な世話者は母親であることが断然多いですが、就学児童の母親の就労が特に高い比率を占めており、子どもがある程度大きくなってからは、母親の就業率が高くなるのがわかります。

子どもの身の回りの世話をしている人

未就学児童

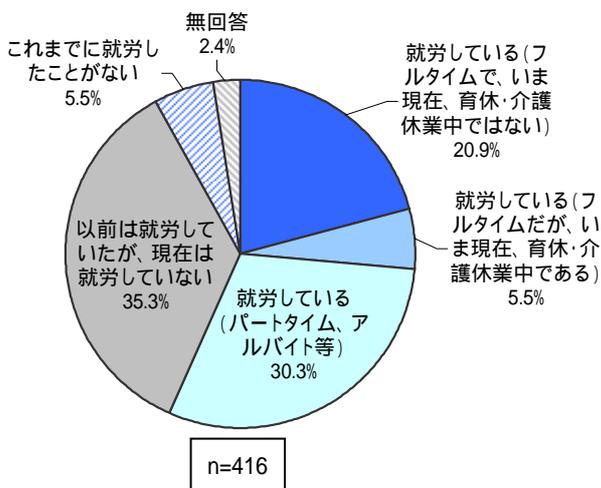


就学児童

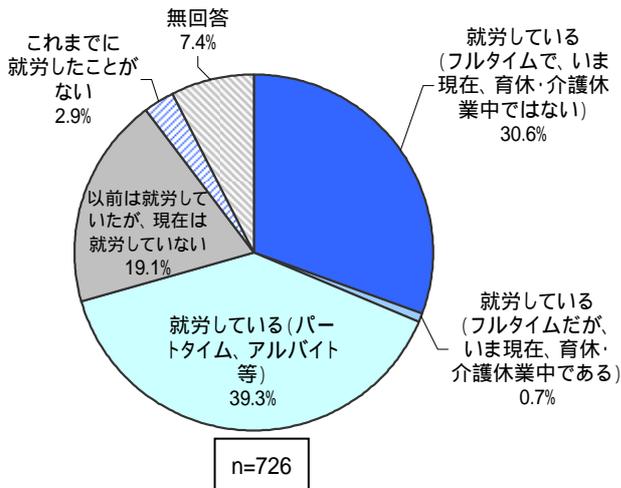


母親の就労状況（パート、アルバイトを含む）

未就学児童



就学児童

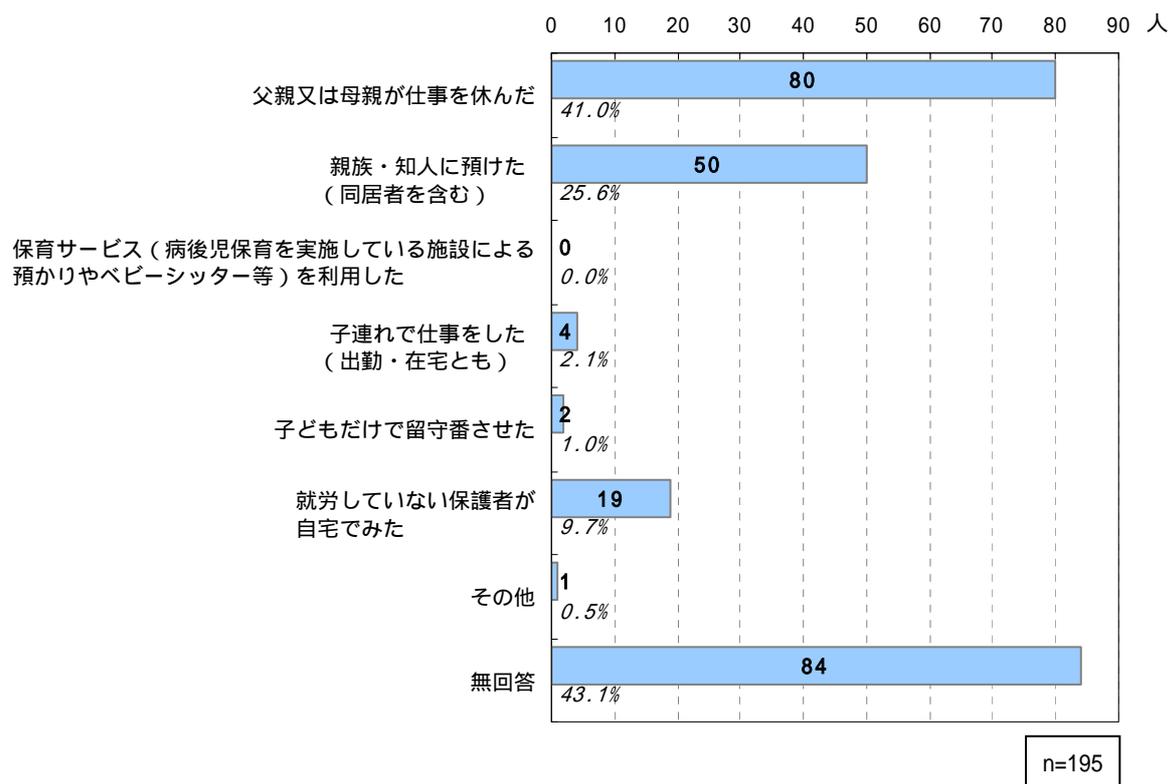


子どもが病気の時の対応について（未就学児童）

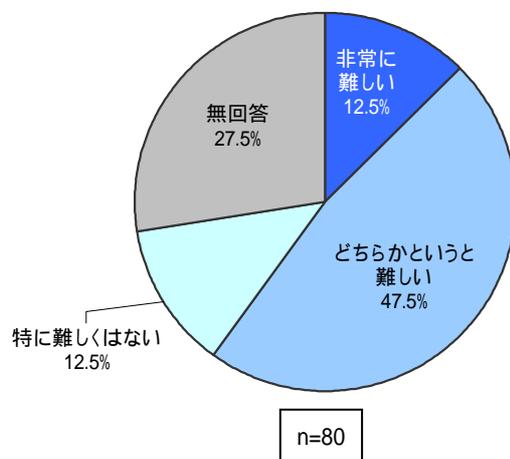
保育所(園)や幼稚園を利用している子どもが病気になった場合の対応については、「父親又は母親が仕事を休む」、または「親族等に預ける」の2つを合わせて、約67%を占めています。

父親または母親が仕事を休むことの困難度については、60%の人が難しいと答えています。

病気の場合の対応



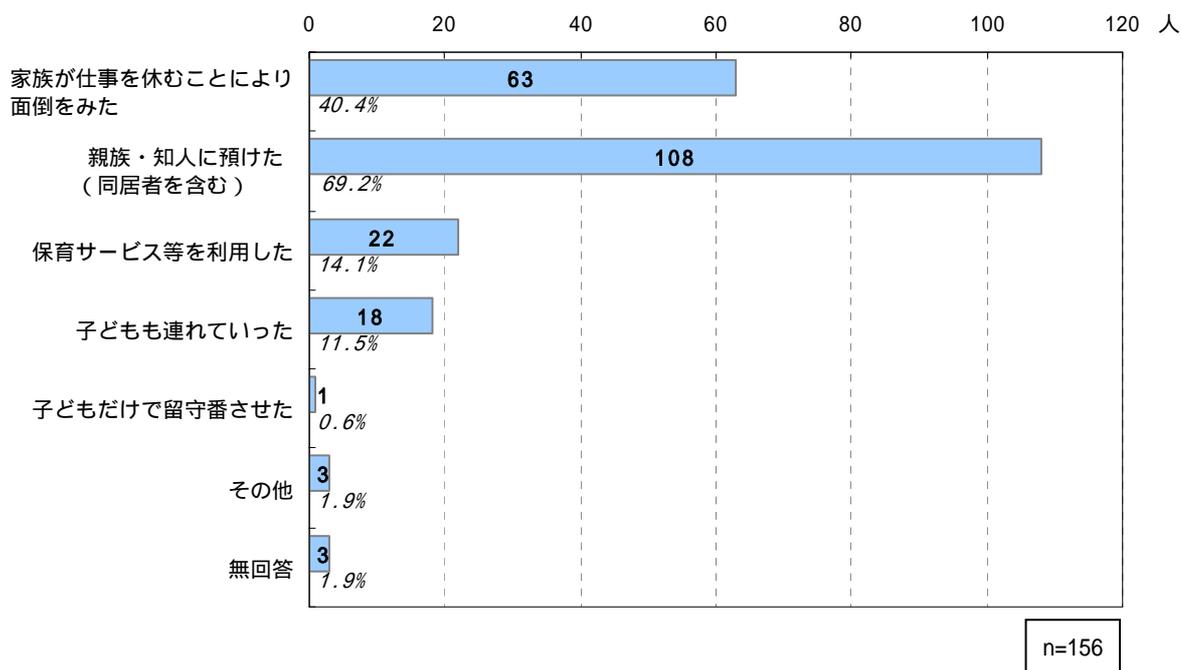
対応の困難度



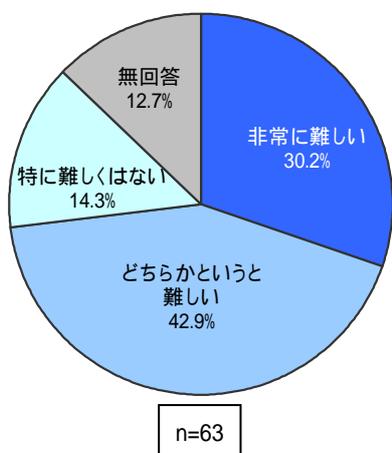
緊急の場合の対応について（未就学児童）

冠婚葬祭や保護者の病気など緊急時の場合の対応については、「家族が仕事を休む」か「親族等に預ける」ことが多く、親族に預けた経験を持つ人は約70%に達しています。また、「仕事を休む」場合は、約73%が「難しい」と答えています。「親族等に預けた」場合は「どちらかというと難しい」と「特に難しくはない」がともに40%弱でほぼ同数となっています。

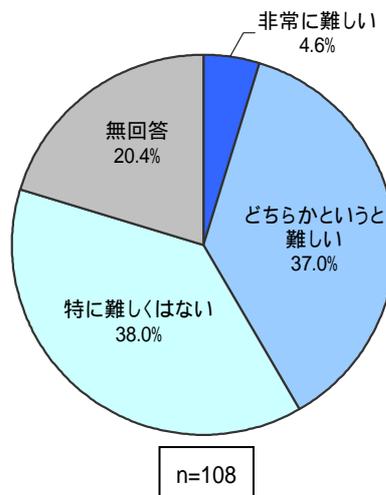
緊急の場合の対応方法



仕事を休む場合の困難度



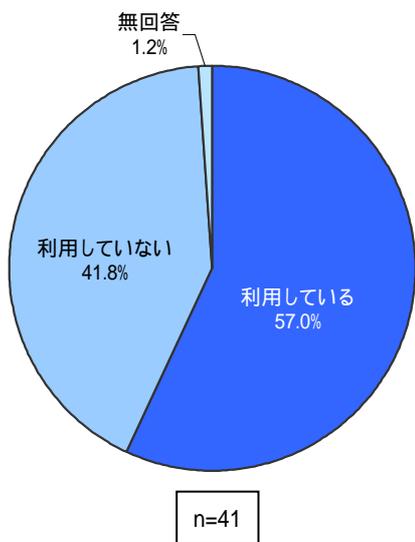
親族等に預けた場合の困難度



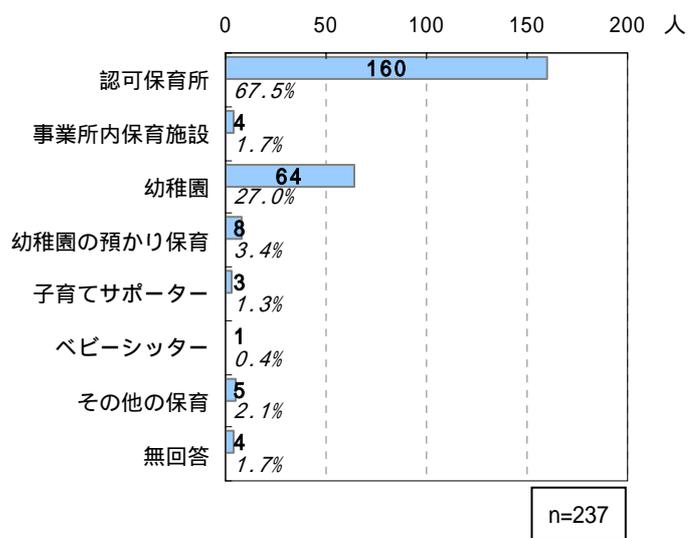
保育サービスの利用状況（未就学児童）

保育サービスの利用者は、57%となっています。また、利用サービスとしては認可保育所と幼稚園が大半を占めています。  
 保育サービスを利用していない理由は、「保護者が就労していない」が最も多く、次いで「祖父母等が見ている」、「子どもがまだ小さい」などの理由が続いています。一方、預けたいが利用できない理由としては「保育サービスの空きがない」や「経済的理由で利用できない」となっています。

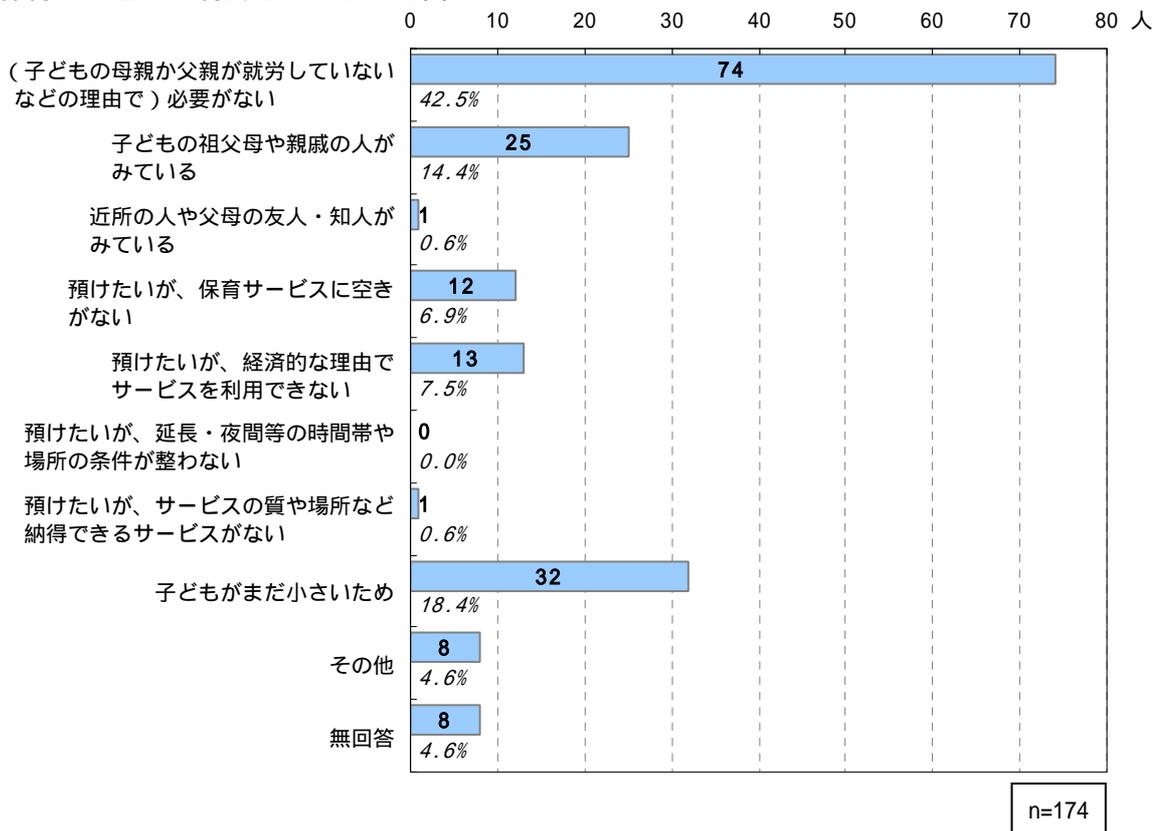
保育サービスの利用の有無



利用している保育サービスの内容



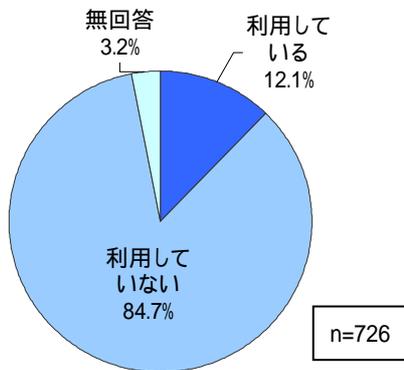
保育サービスを利用していない理由



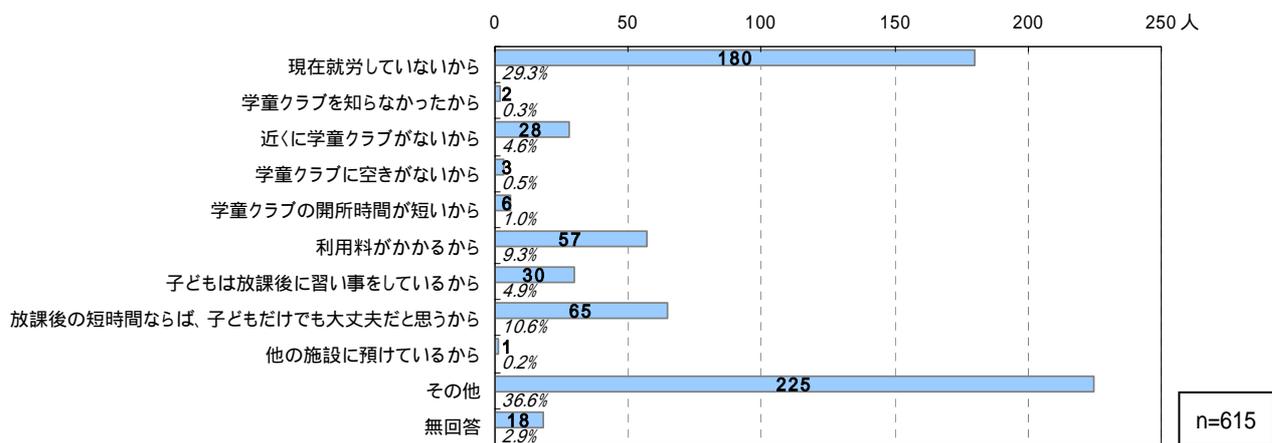
学童クラブの利用状況（就学児童）

学童クラブを利用しているのは約 12% となっています。  
 利用していない理由は、「現在就労していないから」が最も多く、次いで「短時間なら子どもだけでも大丈夫」、「利用料がかかる」となっています。  
 学童クラブの満足度では、「利用者間のネットワークづくり」を除いた全ての項目で満足傾向（「大変満足」+「ほぼ満足」）が半数以上を占め、概ね満足としています。

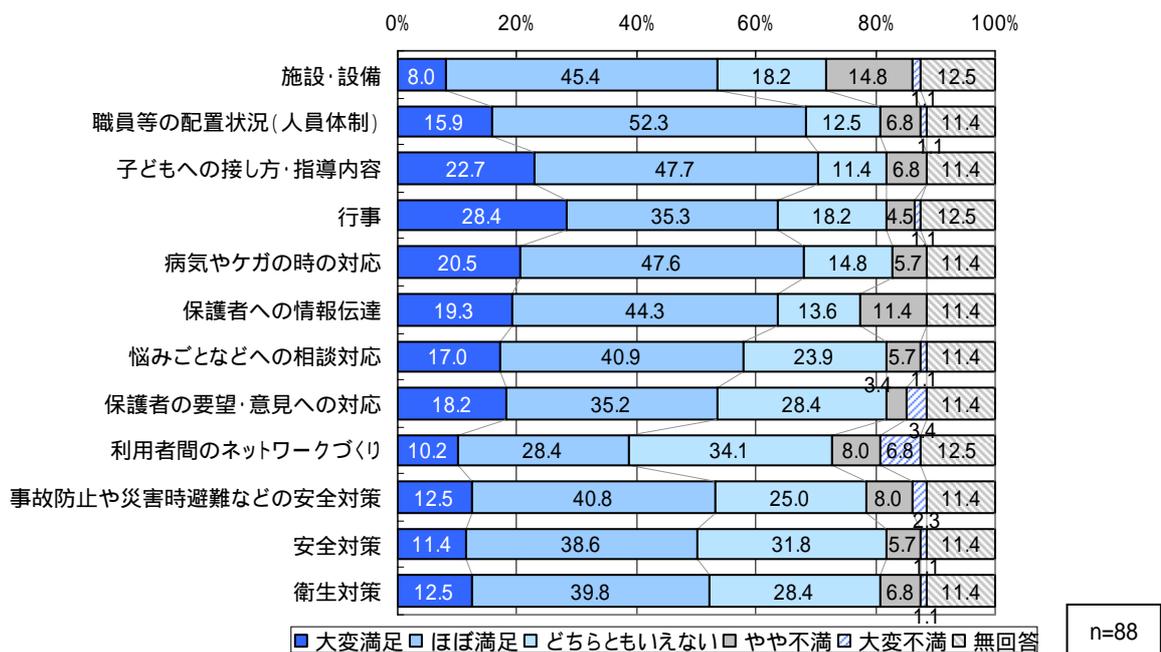
学童クラブの利用の有無



学童クラブを利用していない理由



学童クラブの満足度

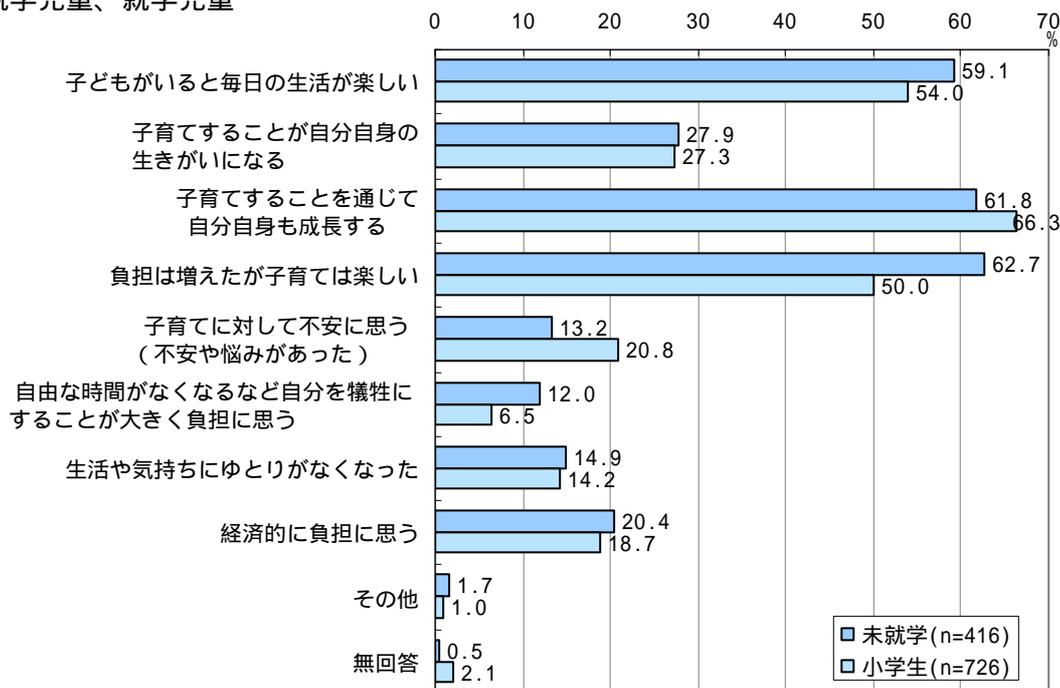


子育て意識（未就学児童、一部就学児童）

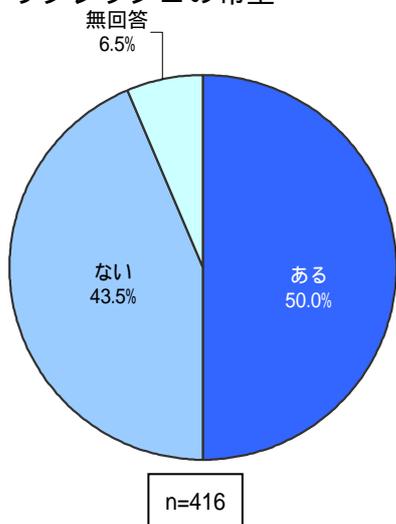
子育て意識としては、「毎日の生活が楽しい」、「自分自身も成長すると感じる」などへの回答が多く、負担は増えても、多くの人は楽しいと感じていることがわかります。他方、「経済的な負担」や「不安や悩み」を感じている人も少なくありません。そのため、半分の人がリフレッシュを希望しています。

子育ての生活意識

未就学児童、就学児童

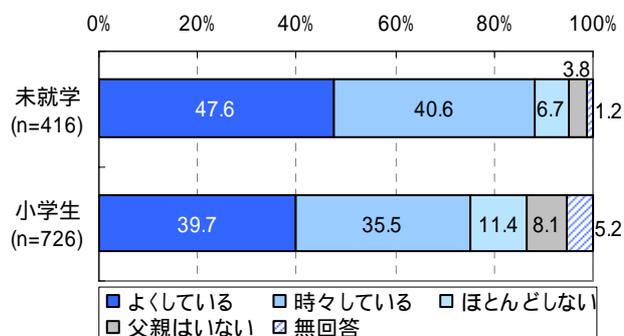


リフレッシュの希望



父親の育児参加の状況

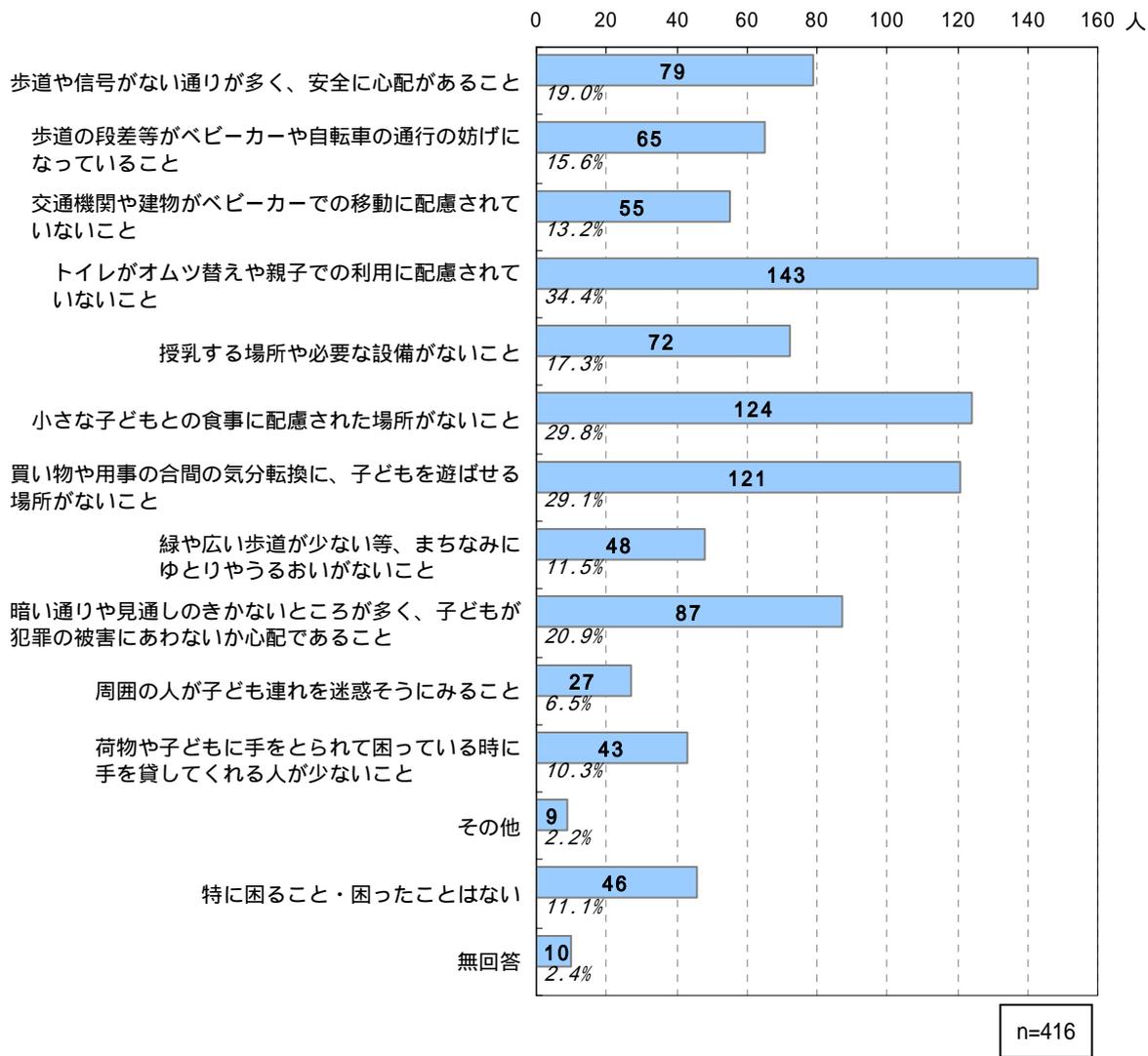
未就学児童、就学児童



地域の環境について（未就学児童）

子ども連れで外出時に困ることとして、回答は多岐にわたっていますが、最も多いのは、「トイレやオムツ替えの利用に配慮されていない」ことであり、次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない」、「買い物等の合間に子どもを遊ばせる場所がない」が続いており、出かけた先の施設での小さな子どもに対する配慮が少ないことが多く挙げられています。

子ども連れで外出時に困ること

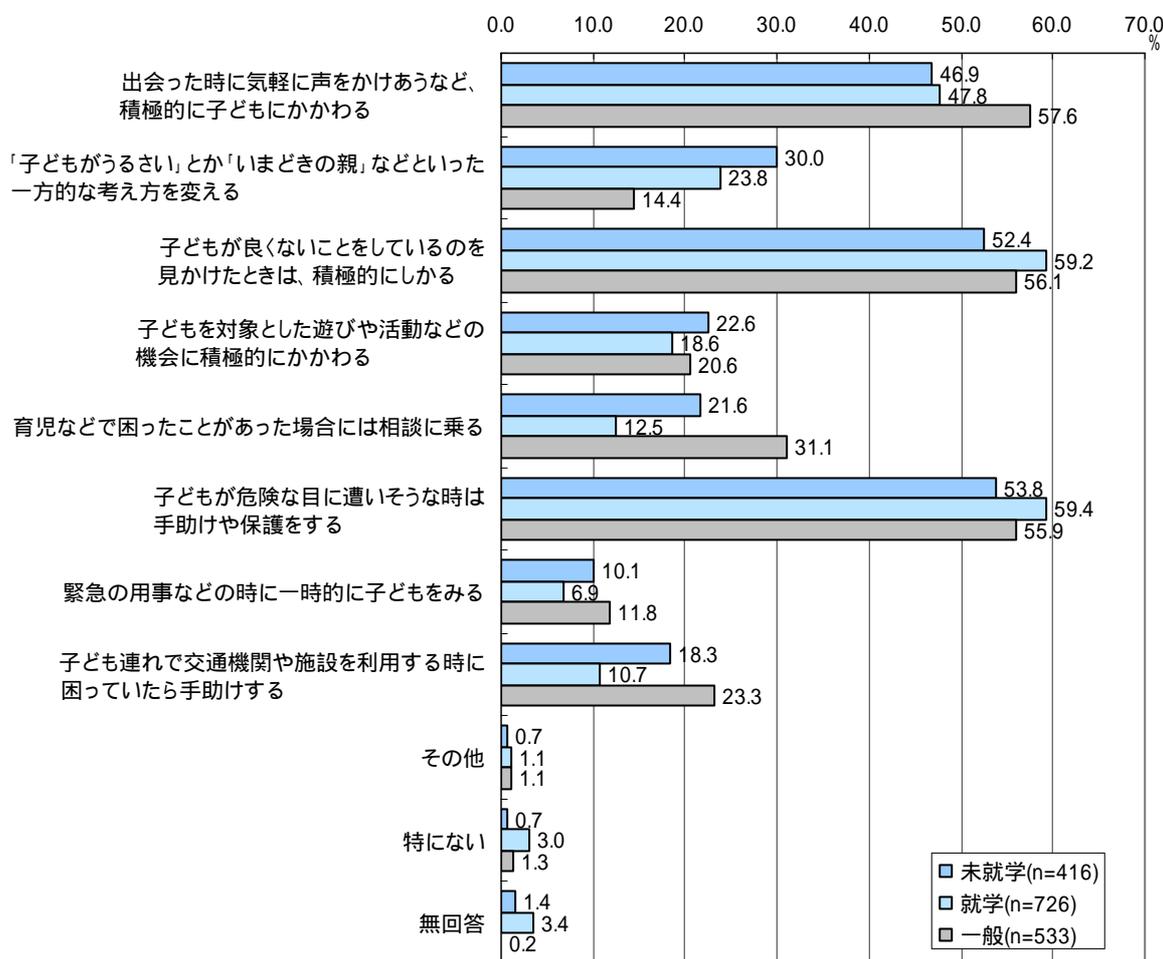


地域に望むこと（未就学児童、就学児童、一般市民）

未就学児童、就学児童の保護者、一般市民のいずれの対象でも共通して多い回答は、「気軽に声を掛け合う」、「良くないことをした場合積極的にしかる」、「危険な目に遭いそうな時は手助けや保護をする」で、地域と子どもとの積極的な関わりが望まれています。

一方、対象によって回答にばらつきが見られるのは、「子どもがうるさい」とか「いまどきの親」などといった考え方を变える」で、未就学児童の保護者の回答が多いのに対し、一般市民では少なく、意識の違いが感じられます。反対に、「困ったことがあったら相談に乗る」は、一般市民に多く、就学児童の保護者では少なくなっています。

地域全体での子育て支援



「子どもの生命と健康を守る」ことについて（未就学児童）

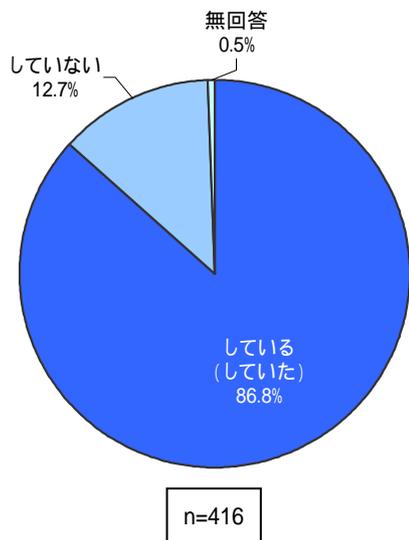
家庭内での事故防止の工夫は、約 87%が「している」に対し、応急処置の学習経験が「ある」は約 55%に留まっています。心肺蘇生法の認知度でも、「知っている」は約 55%で低い結果となっています。チャイルドシートの使用では、約 65%が「必ず使用している」状況にあります。

また、児童虐待防止法の認知度としては、内容まで知っている人は、20%に満たない状況です。

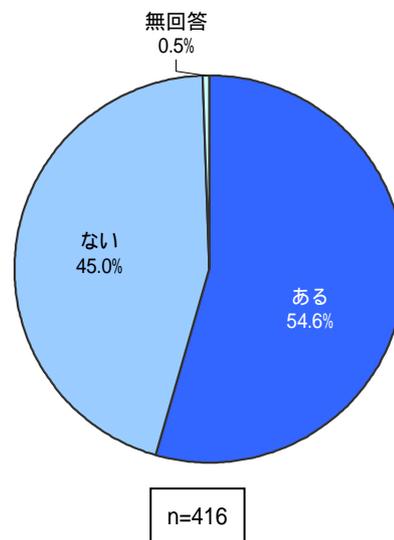
かかりつけ医の有無では、未就学児童ではほとんどのいる（「小児科医」+「内科医」）のに対し、就学児童では「特にいない」が約 10%となっています。

妊娠中の食生活では、「気をつけていた」と「時々気をつけていた」がほぼ半数ずつとなっています。

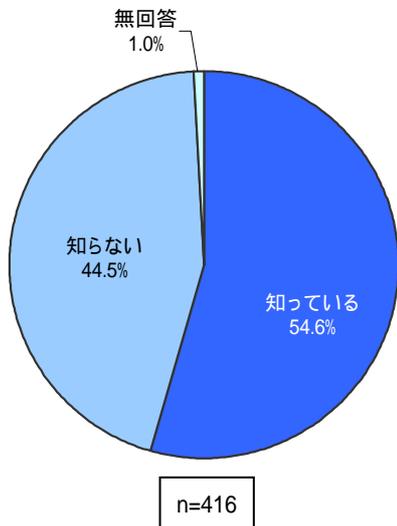
家庭内の事故防止の工夫



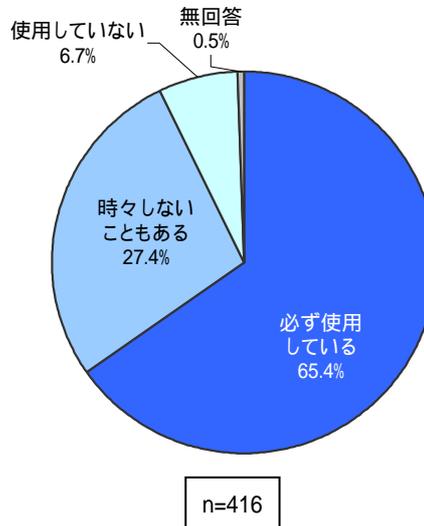
家庭内での応急処置の学習経験



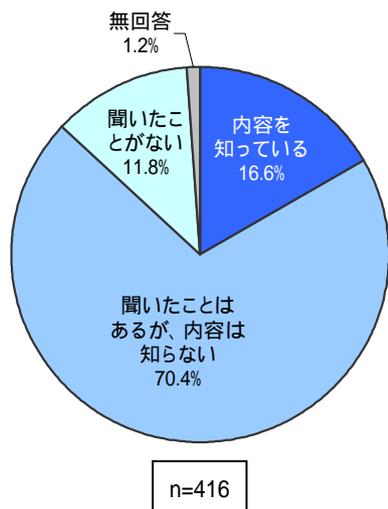
心肺蘇生法の認知度



チャイルドシートの使用状況

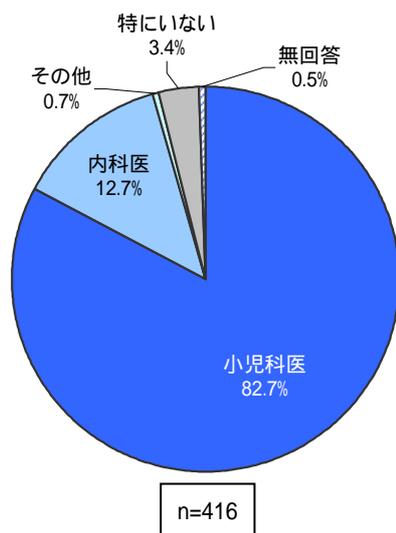


児童虐待防止法の認知度（未就学児童）

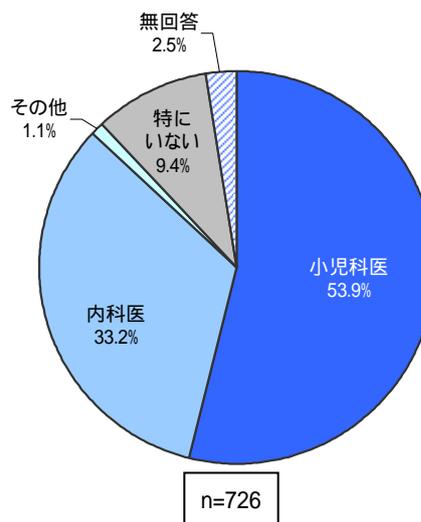


かかりつけ医の有無

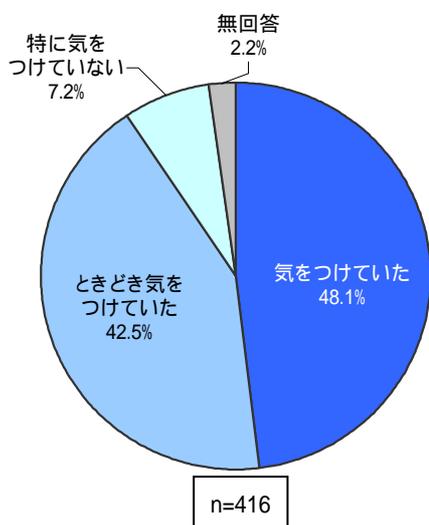
未就学児童



就学児童



妊娠中の食生活（未就学児童）

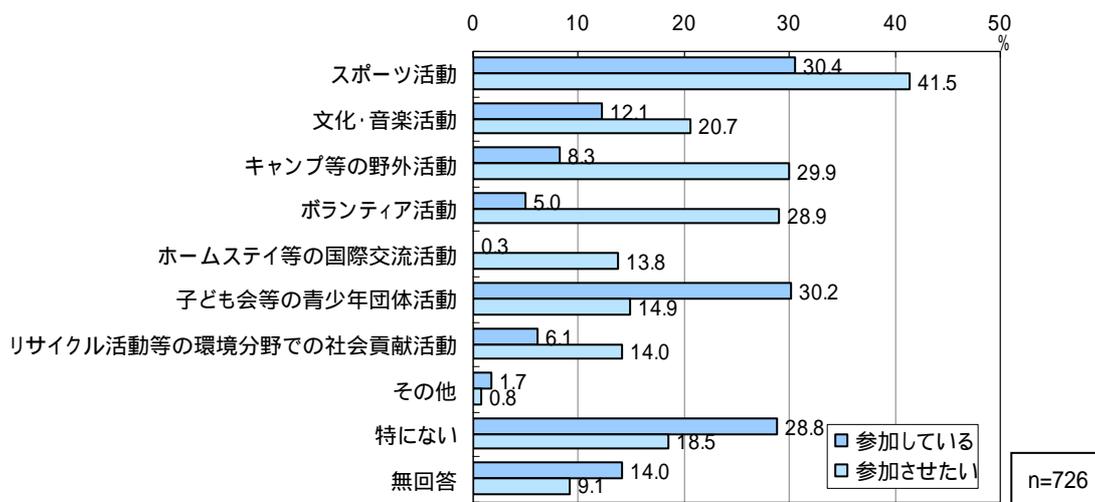


「子どもの遊びと学びを豊かにすること」について（未就学児童、就学児童）

就学児童の地域活動等への参加状況・参加意向についてみると、スポーツ活動は、参加状況、参加希望とも高い。現在は参加していないが、参加を希望するものは、文化・音楽活動、キャンプ等野外活動、ボランティア活動などが多くなっています。  
 子どもの遊び場について感じていることは、未就学児童と就学児童は、大体似た傾向にあり、「近くに遊び場がない」、「雨の日に遊べる場所が無い」といった回答が多く、遊び場の不足に対する不満が強いことがうかがえます。

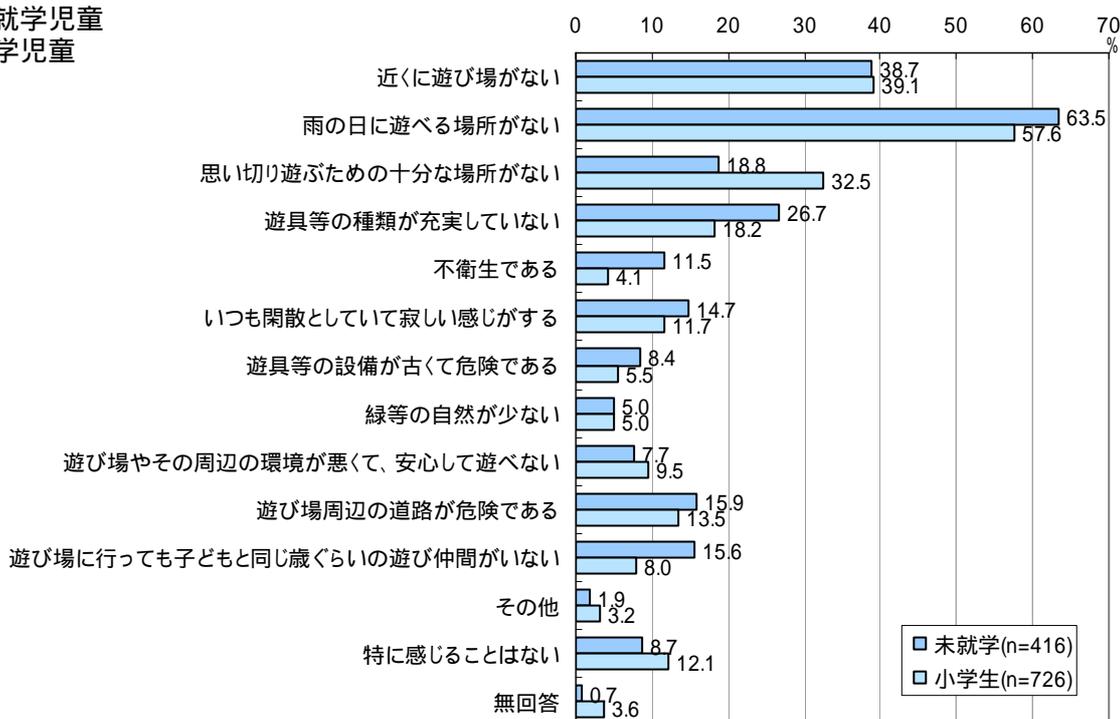
地域活動等への参加状況・参加意向

就学児童



子どもの遊び場について感じていること

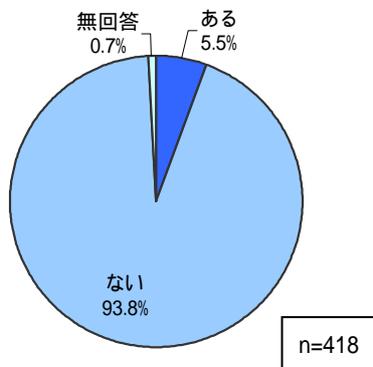
未就学児童  
 就学児童



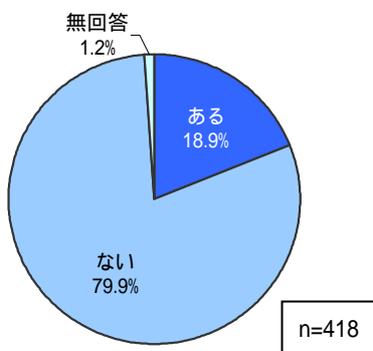
思春期保健対策に関する中高生の意識と実態について（中高生）

中高生の5.5%は、喫煙経験があり、18.9%は飲酒経験があります。また、ダイエット経験は21.1%となっています。薬物等に関する知識は、認識されているものの、性感染予防や避妊については、30%強が知らないという結果となっています。

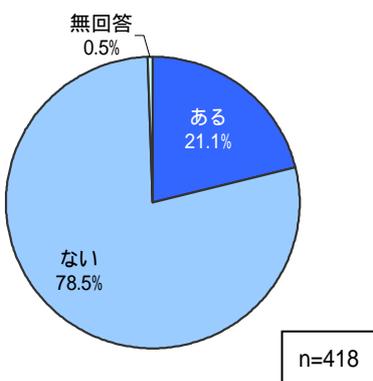
喫煙経験の有無



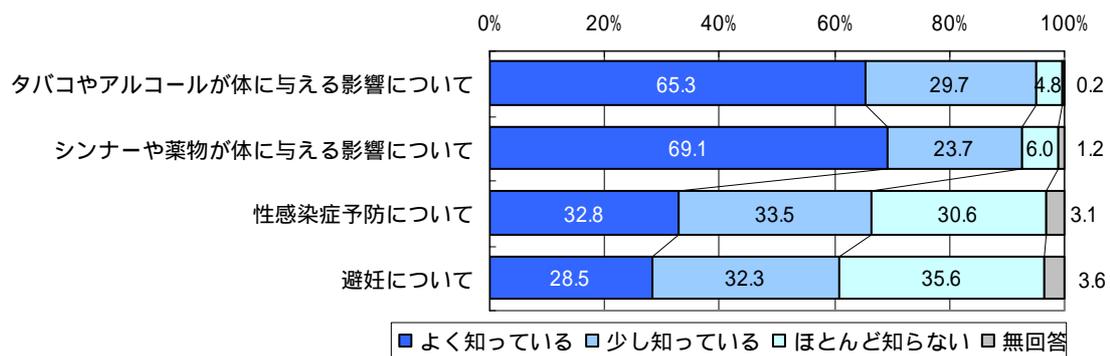
飲酒経験の有無



ダイエットのための食事制限

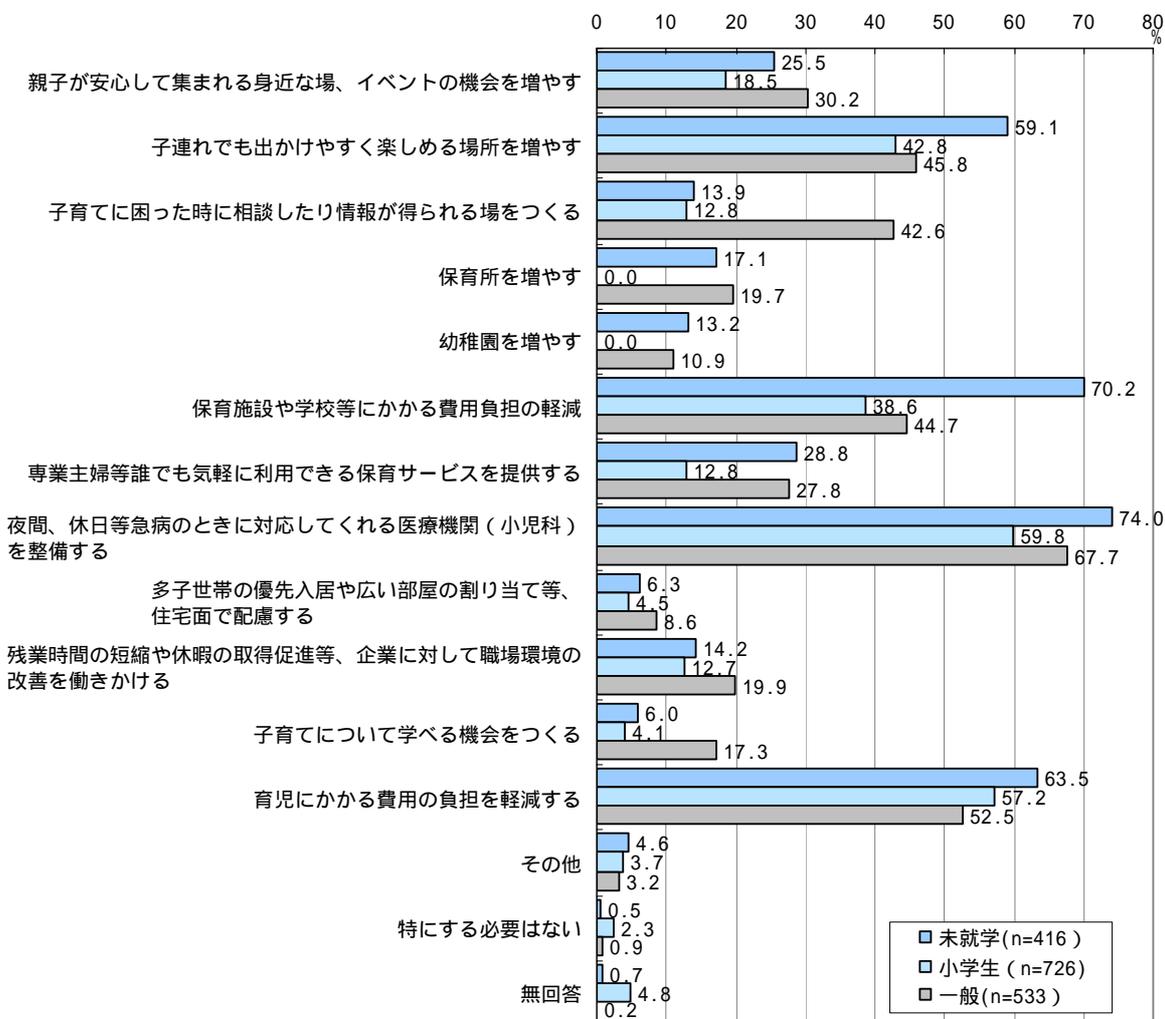


薬物・アルコール・性等に関する知識



子育て環境に関する市への要望（未就学児童、就学児童、一般市民）

子育て環境に関する市への要望では、いずれの対象でも、子どもの健康を守る「医療機関の整備」や経済的負担の軽減（「保育施設や学校等にかかる費用負担の軽減」、「育児にかかる費用の負担を軽減する」）が求められており、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やす」も多くなっています。



## 自由意見

未就学児童の保護者の意見では、各分類の中で多いのが、「C.市の子育て支援対策」に関するもので、中でも「C.3.子育て環境・子育て設備」に関する回答が最も多く57人(22.3%)、次いで「C.2.経済的支援、負担軽減」で50人(19.5%)となっており、この2項目が突出しています。

## 未就学児童の保護者

自由意見の内容	意見数総計 256人
A.地域の中にあるもので子育て支援のために開放したほうが良いと思うもの	計 32人
1. 幼稚園・保育園	11人
2. 学校	3人
3. 体育館・公共施設	12人
4. その他	6人
B. あったらいいなと思う地域における交流イベントや運動	計 35人
1. 行事関係	7人
2. 習い事・体験教室	9人
3. 定例の交流	9人
4. 映画・ショー等	6人
5. その他	4人
C. 市の子育て支援対策に関する意見やその他の意見、要望	計 167人
1. 保育サービスの充実、サービス水準	22人
2. 経済的支援、負担軽減	50人
3. 子育て環境・子育て設備の整備・充実・管理	57人
4. 福祉、教育、地域社会のあり方	6人
5. 行政への不満・注文・期待	13人
6. 医療サービス、医療施設	16人
7. その他	3人
D. 市の情報提供について	計 22人
1. 子育て情報	10人
2. 医療情報	3人
3. 施設の情報	2人
4. インターネット	3人
5. その他	4人

就学児童の保護者の意見では、各分類にまんべんなく意見が出されています。  
 比較的多い意見として、「C.子育て支援対策」に関するものが多く、「C.2.経済的  
 支援・負担軽減」が最も多く48人(16.8%)となっています。

就学児童の保護者

自由意見の内容	意見数総計285人
A.地域の中にあるもので子育て支援のために開放したほうが良いと思うもの	計86人
1.学校・幼稚園・保育園	17人
2.図書館	6人
3.公園	12人
4.1～3以外の施設	36人
5.その他	15人
B.あったらいいなと思う地域における交流イベントや運動	計73人
1.イベント・行事	19人
2.交流イベント	13人
3.スポーツ	13人
4.施設・設備	15人
5.親子	6人
6.その他	7人
C.市の子育て支援対策に関する意見やその他の意見、要望	計99人
1.保育サービスの充実、サービス水準	13人
2.経済的支援、負担軽減	48人
3.子育て環境・子育て設備の整備・充実・管理	19人
4.福祉、教育、地域社会のあり方	7人
5.行政への不満・注文・期待	5人
6.医療サービス、医療施設	3人
7.その他	4人
D.市の情報提供について	計27人
1.市報	4人
2.ホームページ	2人
3.学校	2人
4.情報の内容	5人
5.その他	14人

中高生の意見では、「5. アンケートの感想」が最も多く、次いで「2. 環境・施設・設備」となっています。

アンケートの感想では、アンケートの意義や将来への期待などの内容が多く、子育てに関する関心や積極的な姿勢がうかがえます。

#### 中高生

自由意見の内容	意見数総計 166 人
1. 治安	12 人
2. 環境・施設・設備	44 人
3. 行政への不満・注文・期待	22 人
4. 学校・教育	7 人
5. アンケートの感想	66 人
6. その他	15 人

一般市民の意見では、「2. 経済的支援、負担軽減」が最も多く、次いで「3. 子育て環境・子育て施設等」「8. 行政への不満・注文・期待」となっています。

#### 一般市民

自由意見の内容	意見数総計 201 人
1. 保育サービスの充実、サービス水準	6 人
2. 経済的支援、負担軽減	50 人
3. 子育て環境・子育て施設の整備・充実・管理	38 人
4. 職場環境、就労環境	9 人
5. 子育て情報、広報、イベント情報	9 人
6. 福祉、教育のあり方	7 人
7. 入園等の条件、あり方	2 人
8. 行政への不満・注文・期待	36 人
9. 医療サービス、医療施設	7 人
10. 子育て中の親へのアドバイス、意見	14 人
11. 結婚・出会い	8 人
12. その他	15 人

## 4. 子育て懇談会の概要

### (1) 子育て懇談会の目的

市内で活動する子育てサークルや子育て支援を行っている関係者等で構成する「結城子育て支援ネットワーク連絡会」の協力を得て、活動を進める上での課題や問題点等についてご意見をいただき、計画策定に反映させることとします。

### (2) 意見の概要(要旨)

#### 【保育サービスの供給体制について】

働きに出たいと思っても、保育園へ入るのが困難で幼稚園に入れています。幼稚園での延長保育が割高なので、助成金があれば、幼稚園に行かせていても働けると思います。保育サービスが多様化してきたのに、それを実現させるための人的・物的環境の不備が就労や子育てに不安を与えているのではないかと思います。

保育園の入所条件の緩和を望みます。就労するのに育児中にハローワークに行くことも困難です。ハローワークにいかずに情報を得られるとか、市が子育て中のお母さん方に対して積極的に支援してほしいです。

学童保育の充実を望みます。

預ける場所がないと働きません。希望する保育園に入れたくても入れない人がたくさんいます。保育園を増やしてほしいです。

結城市の中での地域差が激しいので住みにくいです。保育園や幼稚園などを均等に配置してほしいです。

ファミリーサポートはお子さんを日中預けることはできますが、夜間(宿泊を含む)預けることができません。お年寄りにあるショートステイのようなものがあればいいなと思います。

障害児のお子さんがあるお母さんからのお話で、今度小学校に入る年齢で、養護学校に入ることは決まっていますが、夏休みなどは学童に入れたくても、あすなる教室はお子さんがすでにいっぱいです。結城市には1か所しかないなので、そういう施設を増やしてほしいです。

#### 【子育て情報・子育て相談について】

現在子育て中ですが、子育て支援のクラブをはじめてみて、子育てを終えてゆとりのある方にもっと携わっていただき、悩みの相談や情報交換ができればいいと思います。

子どもをなかなか授けられない方に対する支援を望みます。治療に対する援助などがあるとしますので、市からもわかりやすい周知や説明をしてあげてほしいです。

#### 【小児医療体制について】

医療費の免除を就学児までではなく、もう少し延ばしてほしいです。

結城市での夜間医療を充実させてほしいです。

保育園で、急に熱を出したときなどはお家の方に連絡して迎えに来てもらいますが、来るまでの間、お子さんに水分を取らせたり冷やしたりと心配しながら待つことがあります。こんなときに看護師さんがいて専門的な知識で対応できれば、安心してお預かりできるのと思います。

**【子どもの遊び場について】**

幼児から学童までが遊べる公園と屋内型施設が市内にあると、休日に家族で行けて、地域の人と触れ合えると思います。

公園の除草や壊れた遊具の修理を早めにしてほしいです。

**【その他のご意見】**

地域の環境づくりが大切で、男女共同参画社会の意識づけを強化し、子育ては両親の共同作業であることが認識されるようになれば、育児負担も減り、出産も前向きになれるかと考えます。

地域ぐるみでのレクリエーションの充実を望みます。

安心して自分も働けて、子どもも預けられる環境をつくってほしいです。

以前あったチャイルドシートの助成を復活してほしいです。これからは二人乗り・三人乗り自転車に対する助成も必要になると思います。